

キャン ドウ

# CanDo アフリカ

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会(CanDo)会報 2019年12月 [第89号]



## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



**活動の方向性** 建設リーダーによる倉庫建設が始まります  
**プランタイヤ便り** 雨季が到来  
**活動報告** マラウイでの活動—2018年9月～11月—  
 建設のための貯水槽造りの手順書  
**国内** CanDo セミナーを開催しました  
**事務局から**

永岡 宏昌  
 永岡 宏昌  
 宇野由起信  
 飯野ちひろ

写真はパロンベ県の初等学校で。図の上はミレニアム開発目標 (MDGs)、下は持続可能な開発目標 (SDGs)。

## 建設リーダーによる倉庫建設が始まります

代表理事 永岡 宏昌

当会がマラウイ共和国パロンベ県で取り組んでいる、地域の大人たちが子どもの教育と健康を自ら保障する意欲と能力を高めることへの協力—その第一歩は、初等学校保護者を中心とした大人たちが、住民参加型の教室建設を目指して、基礎となる知識・視点・技能を身につけ、参加意識も向上することです。

地域の初等学校は生徒数が多く、事業対象校では 600 名から 3800 名。推定保護者世帯数も 200 から 1200 で平均 677 となります。学校運営委員会や保護者会など代表のみでさまざまな活動を行なうことも、全員参加することにも無理がある規模です。中間的な保護者リーダー集団が必要ですが、該当する既存の集団はありません。活動を進めていく中で、「建設リーダー」の集団の形成を促すことにしました。

保護者代表と地域の集合村長や村長などチーフで、当会との教室建設を目指すことに合意した学校では、次に保護者総会を開催。代表に総会の目標人数を設定してもらいます。小さな学校でも 200 名、大きな学校では数百名となります。集まった一般保護者と覚書 1 を締結して、事業を開始します。

覚書 1 では、一般保護者を対象として 3 回の研修を行ないます。参加者を特定しません。子どもの保護と初等教育の意義、参加型学校運営、建設技術と建設リーダーの条件について

説明し、話し合います。参加者数は最低 100 名とし、満たない場合は研修を延期して、集まらなかった理由を確認し、集める方策を学校に検討してもらいます。

3 回の研修が完了すると、学校に 50 名程度の建設リーダー候補を選んでもらい、再度保護者総会を開催。候補者を承認し、建設リーダー研修と倉庫建設の実施について合意する覚書 2 を締結します。覚書 2 での研修は 6 回。リーダー候補者の過半数の参加があれば実施し、集まらない場合は延期します。候補者は多くの場合、チーフが村人から指名していて、当会が提示した建設リーダーの条件に合っていないことや、無報酬を説明していないことがあります。また、参加意欲の高い保護者を指名していない場合もあります。研修を重ねる中で、学校とチーフで候補者の調整をしてもらいます。研修と並行して建設リーダーが一般保護者を指導し、砂の収集、土壌安定化レンガ(SSB)の製作、建設用の水を確保する SSB での貯水槽造りなど、作業に取り組んでもらいます。最後の研修で倉庫の建設工程に沿った活動計画を策定。そこに倉庫建設にリーダーとして参加する意思のある建設リーダー一覧表を添付してもらいます。その計画を担当教育官が承認すると、倉庫建設が始まります。12 月 3 週、最初の 1 校で開始。年明けには多くの学校で建設が始まります。

## ブランタイヤ便利

### 雨季が到来

永岡 宏昌

10 月半ばごろ、ブランタイヤから約 90 キロ、当会の現場事務所のあるパロンベ県ミゴウイ町の幹線道路沿いで、空き物件と思っていたくつもの店舗が開きました。店頭で肥料を置き、値段表が書かれた黒板が掲示されました。値段表には、通常の小売価格と補助金券(クーポン)を利用した場合の大幅に安い価格が記載されています。それらの店舗に大型トラックが肥料を運び込みます。住民が自転車で集まってくる、行列して購入する光景が繰り返し見られるようになりました。

通常は 10 月からはじまるの雨季の前、住民は中央政府から肥料の尿素券と NPK(窒素=N、リン酸=P、カリウム=K)券、種子のメイズ券と豆類券との 4 枚の補助金券がもらえるのだそうです。2000 年代の初めくらいまでは、チーフが補助金券を受け取って住民へ配分していたとのこと。現在は村ごとに、ニーズのある住民の事前調査が行なわれて名前が登録され、中央政府でリストの中から補助金券を支給する住民を選んでいるそうです。そして、受け取った住民は、その補助金券を独占せずに、村内の住民と相談して、支払い額をどの程度負担するか、購入して持ち帰る人はだれか、といったことを決めると聞きました。

雨は 11 月から時々降っていましたが、12 月になると本格的に雨季となり、畑仕事が始まりました。畑に畝を立て、小さなくわで穴を掘って、種子を一粒ずつ入れ、肥料も小さなスプーンで数粒ずつ入れる、という全くの手作業です。農業機械どころか、家畜が牽引するすき耕作も見られません。

そのような農作業が行なわれるので、雨季に入ると住民は農業に集中して忙しく、当会の住民参加の建設活動は難しいだろうと言われていました。1 月末から手順を踏んで行なっている活動では、地域の大人たちの参加意識の向上を目指して研修を重ねてきました。その成果となる倉庫建設が雨季と重なることが予想されました。住民の生存にとって最も大切な雨季の到来を心配しながらの事業展開となりました。多くの一般保護者に集まってもらった研修の後、彼らの中から公正に選ばれた 50 人程度の建設リーダー候補への 6 回の研修を経て、本事業を大切に思い積極的に取り組む、30 人程度に絞り込まれた本気の建設リーダーが、多くの学校で育ってきました。

何とか、雨季の到来の時期に、並行して建設活動に取り組める基盤ができたようで、ホッとしています。

## CanDo セミナー

「アフリカの教育事情」と「マラウイの初等学校における活動」を聞いて・考える  
を開催しました

### □9月

○パロンベ県における初等学校の施設改善の2次候補校8校(当初は9校)のうち6校で、覚書1を締結(8月に1校で締結)。一般保護者向け研修\*1を3つの関係機関と協働で開始しました。



\*1 第1回:子どもの教育—県教育局

第2回:参加型学校運営—県地域開発事務局

第3回:建設技術と施工管理—県公共事業局

○1次候補校9校のうち3校、2次候補校2校で、覚書1の3つの研修\*が完了しました(1次候補校は8月に5校で完了)。

○1次候補校5校と、覚書2(建設リーダー研修及び小規模施設実践)を締結。一般保護者から選ばれた建設リーダーを対象に6つの研修\*2を公共事業局と教育局と協働で開始しました(8月の順番を変更。第3回のみ教育局)。

\*2 第1回:現地資材と記録

第2回:SSB(土壌安定化レンガ)製作

第3回:活動計画

第4回・第5回:建設技術

第6回:施工管理

### □10月

○1次候補校1校、2次候補校3校で、覚書1の3つの研修が完了しました(1次候補校は9校全てで覚書1の研修が完了)。

○1次候補校3校、2次候補校5校で、覚書2を締結し、建設リーダー研修を開始しました。

○パロンベ県における子どもの健康を守る保護者の活動形成事業について、県教育局と協議。実施する1教育区(全9教育区)として、教育局長からムロンバ教育区が推薦されました。

○ムロンバ教育区の教育官に事業概要を説明し、研修内容と形態の協議を行ないました。教育官から教育区内の初等学校全9校の保護者リーダー(学校運営委員会、PTA、マザーグループなど)に事業について伝えることを合意。

### □11月

○2次候補校1校で、覚書1の3つの研修が完了しました。

○1次候補校1校、2次候補校1校で、覚書2を締結しました(1次候補校は9校全てで覚書2を締結)。

○覚書2の第2回研修をSSB(土壌安定化レンガ)製作を修了後、建設リーダーが中心となってSSBを製作します。倉庫建設(及び次の段階の教室建設)のための貯水槽造りに十分な数のSSBが準備できた3校で、貯水槽造りの実践研修を行ないました(p.5参照)。

## 活動報告

### 建設リーダー実践研修—建設のための貯水槽造りの手順書 事業担当(事務局) 飯野ちひろ

・監修: パロンベ県公共事業局

・作成日: 11月13日

・予定している他の参加者: 学校運営委員会(SMC)議長、チーフ(集合村、村)

たところを含む)の近く、雨水が流れたり、溜まりやすい場所は避けることを説明。参加者はこれらを踏まえた上で、話し合っただけ地を決める(時間がかかる場合は、当日は敷地ならしから先の作業は行なわない)。

#### ◆実践研修1日目の内容(3時間)

□はじめに(5分): 前回の研修を復習する。

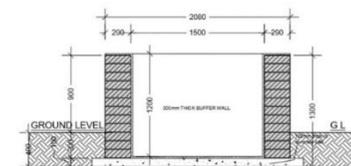
□貯水槽の図面説明(15分)

サイズは、内側1.5m×1.5m×1.2m。

資料の図面を確認する(下はそのうちの一部分)。

□研修の位置づけ(5分)

倉庫・教室建設において、基礎のコンクリート固め、リングビーム(上部の横材)設置、床の設置や仕上げに多くの水が必要になるため、2,700リットルの容量の貯水槽造りを提案。敷地を決め、手順を理解し、床の設置まで行なうという研修1日目の目的を共有する。



□貯水槽造りのスケジュール(5分)

1日目: 敷地決め・ならし/位置決め/溝掘り/床の設置/養生

2日目: 養生

3日目: 位置決めした所に1段目のレンガを置く/2段目から積み上げて壁を設置/プaster(モルタル)仕上げ/土の埋め戻し/養生

□当日の作業の詳細を説明し、作業(120分)

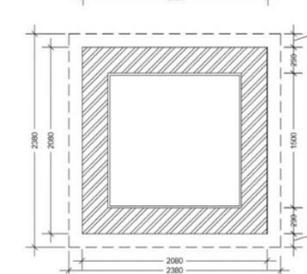
—敷地ならし、位置決め、溝掘り、床設置—

□終わりに(20分)

質疑応答を行ない、コメント・感想を出し合っ、共有する。最後に再度出席を確認。次回の作業(壁の位置決め~養生)の日程を決める。

□敷地決め(10分)

留意事項として、トイレやゴミ捨て場(以前あつ



## CanDo セミナー

### 「アフリカの教育事情」と「マラウイの初等学校における活動」を聞いて・考える を開催しました

11月13日、東京・不忍通りふれあい館で講師2人によるCanDoセミナーを開催しました。

#### アフリカの教育事情

##### ～そして、私たちにできること～

前半の講師は開発コンサルタントの理事 國枝信宏。「アフリカ教育協力との関わり」から話しました。2003年までCanDoスタッフ、2004～2015年はJICAプロジェクト専門家として、エチオピア「住民参加型基礎教育改善プロジェクト(ManaBU)」、ニジェールとセネガルで「みんなの学校プロジェクト・フェーズ2」を担当。2015年からJICA国際協力専門員として、アフリカ10か国の基礎教育協力プロジェクトの形成・運営支援にかかわっています。

まず「持続可能な開発目標(SDGs)」目標4「すべての人に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」について、「アフリカでは」まだ小学校にさえ通えない子どもも多い、通えても基礎学力さえ身につけられない、という現状を話しました。次の「学習の危機」で、小学生の多くが最低限の読み書き・計算さえ習得できていないことを他の地域とのグラフと比較して、「国別に教育指標」を数字を紹介。「『質の高い教育』を阻む複雑な要因」として、需要面では多様なニーズと「万人のための教育(EFA)」による急激なアクセス拡大、

そしてさまざまな供給面の要因。需要と供給をつなぐ住民参加の欠如・形骸化をあげました。「学校までの厳しい道のり」「どれもみんな『小学校』！」を写真で紹介した後、「住民参加をめぐる各関係者の立場」を説明。行政官・学校教員は、住民の参加は義務。保護者・地域住民は、時代は「無償初等教育」(今後はすべて行政に任せるべき)。開発協力関係者は、住民参加は貧しい者からの搾取(だから外部者が援助すべき)、行政は非効率だが校長も信頼できない、など。「これでは主体的かつ持続的な住民参加は実現しない！」

その後、事例エチオピアでの行政と地域の協働による学校建設(2003～2007年)、事例2として住民と教員の協働による教育改善<「みんなの学校」プロジェクト群(2004年～実施中)>を紹介。みんなの学校における「活発な地域参加を促す仕組み」「学校運営委員会による活動を通じて子どもたちに学ぶ機会を提供」「保健衛生、安全、環境など、幅広い分野に貢献」「コミュニティ協働型学習改善活動」を写真で説明。「活発に続く、コミュニティに根差した活動」として、ニジェールでの児童1人当たり活動実績(額)は対所得比(日本のPTA会費比)は約7倍相当になると数字をあげました。「私の視点～まとめに代えて～」の最後は、「『質の高い教育』の保障は『みんな』の協力で達成できる」。

#### マラウイの初等学校における 教育施設改善に関する保護者の参加意識を 強化する活動

後半は、代表理事兼事業責任者 永岡宏昌による活動報告。「CanDoについて」、重要と考えている「社会的能力向上」、「中心的価値と副次的利益」の話から始まりました。「マラウイ共和国の概況」「事業の形成過程」、地図と「パロンベ県の概況」に続き、県の「行政区分と機構」「事業に関わる行政官」「初等学校に関わる関係者」を図で説明。「初等学校88校の在籍生徒数」「初等教育修了率」の数字を紹介。

「事業形成まで」「候補校での事業の流れ(うち倉庫建設の実務は予定)」の後、「チーフ」と「一般保護者」の2つの「関係作り」について話しました。チーフ(伝統首長・集合村長・村長)には協力を求めます。中には手当・食事などを期待するチーフも見られ、保護者が説得する場合もあります。チーフは保護者(住民)参加を促す役割と認識されています。

一般保護者との関係作りは、保護者総会と一般保護者研修への参加。これらを通して、理解の進化や誤解の解消がされています。副次的利益(報酬・手当・昼食)への期待、外部者からモノを獲得するゲーム感覚、現金徴収の不安・不満が解消。リーダーへの利益供与がないこと、時間通りに集まる運営の意義、初等教育を修了する意義の理解が深まっています。関係を作り、建設リーダーが選出されます。

建設リーダーは、意欲のある多くの保護者から受け入れ、職業訓練校教員による研修を受

けます。リーダーは当会から報酬を得ていると噂されることが多々あります。ないことを周囲に再確認してもらい、参加を促し続けます。

#### 質疑応答から

質問: CanDoでは副次的利益解消のためには、何度も話すのか。

永岡: 言い続けること、そしてぶれないこと。

質問: CanDoが得ている外務省の資金には期限がある。進捗が遅れて、完成は待たねばならない、という葛藤はないのか。

永岡: 対象校とした18校のすべてで倉庫建設を完了することが目標ではない。先行する9校と後からの9校に分けている。後のほうがスムーズなほうが多い。飛びつく学校が順調にいくわけではなく、校長が主導で住民がついてこないことが多い。

質問: 公立校の熱血先生はいないのか。

國枝: いけないわけではないが、先生にリーダーシップがあることを前提にせず、それを引き出す活動を心がけている。

質問: EFA(=ミレニアム開発目標2)のアクセス拡大とSDG4についてどう考えるか。

國枝: 10月、世界銀行は「学びの貧困」の概念を提唱。SDG4の達成はすでに困難として、より現実的な対策を呼び掛けている。

永岡: マラウイでは中退で出ていくことを前提。せめて、小学校をおえるように協力し、教育は自分たちで支えていく、ということを取り戻す。あてにするようになったのは援助の罪だ。

## 事務局から

### 報告

#### ◇組織

○10月、第4回 CanDo 預託金の募集(継続の打診)を開始しました。預託期間は3年間。

#### ◇国内活動

○9月28日・29日、東京・お台場センタープロムナードで開催された、グローバルフェスタ JAPAN 2019 に出展(ブースは140)。マラウイでの活動のパネルを展示し、来場者に説明。そして、興味のある方には、ボードゲーム「バオ」で遊んでいただきました。



○11月13日、東京・不忍通りふれあい館で CanDo セミナーを開催しました(p.6~p.7を参照してください)。

#### 人の動き ~12月16日

○10月7日、事務局員 飯野ちひろがマラウイに出張。

○10月28日、調整員 宇野由起信がマラウイから一時帰国。

○11月4日、永岡がマラウイ出張から帰国。

○11月22日、飯野がマラウイ出張から帰国。

○11月29日、永岡がマラウイに出張。

○12月15日、インターン(準スタッフ\*)谷垣君龍(たにがき くんりゅう)をマラウイに派遣。

\*ケニアではインターンとしていましたが、マラウイの活動では、インターンとして派遣後、準スタッフとして業務委託を行なっています。

■次号は2020年3月に発行の予定です。

#### CanDo アフリカ [第89号]

2019年12月25日発行

発行人:

永岡宏昌

編集人: 佐久間典子

発行:

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会 (CanDo)  
〒110-0001 東京都台東区谷中2-9-14 第2森川ビル B号室

電話:

03-3822-1041

電子メール:

tokyo@cando.or.jp

ウェブサイト:

http://www.cando.or.jp/

郵便振替:

口座番号 00150-2-15129 加入者名 アフリカ地域開発市民の会